

CIGS ワークショップ 「グローバル化・学際化の中で発展するロボット産業と日本の課題」

日 時 2017年12月18日(月) 15:00-17:00 (受付開始 14:30)

会 場 キヤノングローバル戦略研究所 会議室3
(東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 11階)

講 師 黒川 清 (政策大学院大学・東京大学 名誉教授)

本田 幸夫 (大阪工業大学 教授)

モデレーター 栗原 潤 (キヤノングローバル戦略研究所 研究主幹)

ワークショップの目的と概要

ロボットの経済社会への活用領域が急速に拡大・深化している。従来ロボットを積極的に活用してきた産業分野では、AIを含むICTを援用した更なる進化が観察されている。同時に医療、介護、教育等の各種サービス分野において、実用化には道半ばの観があるものの、世界中で最先端の実験・研究が実施されている。こうしたサービス分野でのロボットの活用は、医療福祉関連分野の財政的負担軽減および労働力不足解消を目的として、少子高齢化の問題に悩まされている日本にとって重要課題の一つである。そして、これが故に日本各地でロボット開発が熱心に議論されている。

翻って海外—特に米欧中—では、国際的多業種共同研究と学際的情報交換が積極的に実施されている。このため、日本産業の競争力が低下して、これまで当該分野で先導役であった日本が後塵を拝する危険性が懸念されている。

上記の問題意識を背景に、本ワークショップは上述の海外の研究における長期的趨勢を概観し、内外のロボット開発の現況を睨みつつ、日本ロボット産業の将来を展望することを目的とする。

プログラム

15:00-15:10	イントロダクション 「本ワークショップの概要説明、スピーカーの紹介」 栗原 潤
15:10-15:40	セッション1 「グローバル時代における日本の科学技術力の課題」 黒川 清
15:40-16:10	セッション2 「ロボット産業の適用領域とその抱える問題点」 本田 幸夫
16:10-16:30	セッション3 「ロボット技術開発の経済的必要性と倫理的課題」 栗原 潤

16:30-16:55	討論・質疑応答 モデレーター 栗原 潤
16:55-17:00	閉会の辞 栗原 潤

講師紹介

黒川 清

政策研究大学院大学・東京大学 名誉教授

東大医学部卒。同大学院医学研究科修了。69-84年在米。ペンシルバニア大学医学部等を経て、79年UCLA内科教授。その間、カリフォルニア州医師免許、米国内科専門医、同内科腎臓専門医。89年東大内科教授、96年東海大教授、医学部長。97年日本学術会議会長、総合科学技術会議議員(2003-06年)、内閣特別顧問(2006-08年)、WHOコミッショナー(2005-08年)、沖縄科学技術大学院大学学園理事(2011年2月-)、野口英世アフリカ賞委員長等。

日本内科学会理事長、日本腎臓学会理事長、国際科学者連合体の役員・委員を務め、国際腎臓学会理事長、国際内科学会議会長、Master of American College of Physicians, Founding Governor of ACP Japan Chapter (2003-2011), Board member of Alexandria Library, Egypt (2006-2010), Agency for Science, Technology and Research (A*STAR), Singapore (2007-2011), Khalifa University of Abu Dhabi Government (2008-), Global Science and Innovation Council of the Prime Minister of Malaysia, International Scientific Advisory Committee of Harvard T.H. Chan School of Public Health, JBL Center for Radiation Sciences、東京大学グローバル・アドバイザー・ボード (UTokyo Global Advisory Board)、東北大学知のフォーラム国際アドバイザーボード委員など幅広い分野で活躍。2014年4月からは英国政府から依頼され World Dementia Council のメンバー。その他現在、日本医療政策機構 代表理事、Adjunct Senior Research Scientist of the Earth Institute of Columbia University (2011-)、Distinguished Research Affiliate, The MIT Media Lab (2011-)、内閣官房健康・医療戦略室健康・医療戦略参与、内閣官房「未承認薬の海外提供に関する専門委員会」座長、同「国際医薬パートナーシップワーキンググループ」メンバー、東京都「超高齢社会における東京のあり方懇談会」座長、一般社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT Fund)代表理事・会長(2013-)。

著書『世界級キャリアのつくり方』『大学病院革命』『イノベーション思考法』『規制の虜』他。

ブログ <http://www.kiyoshikurokawa.com/>

本田 幸夫

大阪工業大学 教授

<略歴>

1980年 神戸大学工学部計測工学科卒業

1980年～1989年 日本電装株式会社（現デンソー）勤務

1989年～2012年 松下電器産業株式会社（現パナソニック）勤務

（モータ技術研究所、マレーシア松下モータ出向（経営責任者）、モータ社 CTO 兼モータ開発研究所所長、本社 R&D 部門 ロボット事業推進センター所長、理事）

2013年4月より、大阪工業大学工学部ロボット工学科教授 工学博士

2014年4月より、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 ロボット介護機器開発・導入
<研究歴>

促進事業 プロジェクトスーパーチャージャー

自動車用ワイパー・ウォッシャーシステムの実験振動騒音解析

有限要素法を中心としたモータの騒音振動解析技術の研究開発

電磁界解析を利用した EV（電気自動車）用同期モータの研究開発

エアコンコンプレッサー用高効率 IPM モータの開発

産業用、家電用を中心に、高効率・高速回転・省資源モータの研究開発

生活支援サービスロボットの開発

<著書>

1999年 電気学会技術報告第 719 号「リラクタンストルク応用電動機と制御システム」共著

2001年 電気学会技術報告第 833 号「応用面から見たリラクタンストルク応用電動機の開発動向」共著

2001年 オーム社「埋込磁石同期モータの設計と制御」共著

2001年 日刊工業新聞社「モータ技術実用ハンドブック」共著

2007年 朝倉書店「モータの事典」一部執筆

2007年 オーム社「松下の省エネモータ開発物語」

2014年 祥伝社「ロボット革命」

2016年 PHP 出版「人類なら知っておきたい人工知能の今と未来の話」（監修）

2016年 電気学会「リラクタンストルク応用モータ」（共著）

<http://www.oit.ac.jp/bme/~honda/contents01.html>